

# シリーズ「乳がん①」

## 乳がんってどんなものなの？

独立行政法人国立病院機構和歌山病院

外科 宮坂美和子

「がん」と聞くと『治らない』とか『しんどい治療ばかり』というイメージがあるかもしれませんが、乳がんは、他の部位のがんと比べ、治療後の経過が良いといわれていますし、治療法も日々進歩しています。乳がんやその治療法について、正しく理解することで、みなさんの安心へとつながるはずですよ。

①乳がんの発生：乳房は、乳腺と呼ばれる腺組織と脂肪組織がありま

12人に1人が乳がんにかかるといわれており現在も増加傾向です。もちろん男性も乳がんになります(女性100人に対し男性1人程度)。女性のがん罹患数では、乳がんがトップです。そして、残念ながら今でも年間で約1・3万人の方が亡くなっています。乳がんは40代半ばから60代後半にかけて発見されるケースが多いのですが、90代でも手術をする方もいますし、10代・20代の方も少ないですがあります。乳がんのリスクとしては、

②乳がんと統計：生涯を通して、日本人女性の初潮年齢の低下・閉経年齢の上昇(55歳以上)、未婚、高齢出産、肥満(閉経後の肥満)、大量のアルコール、喫煙、長期間のホルモン補充療法、夜間勤務のある仕事、乳がんの家族歴などがあります。これらに当てはまる人は注意が必要です。

③乳がんの症状：乳がんは現在も半数以上が自覚症状があつて発見されています。しこり、皮膚の陥没・えくぼ・ひきつれ、乳頭の陥没・ひきつれ、乳頭・乳輪の湿疹・びらん、乳頭からの分泌液、わきの下のしこりなどがあれば乳腺外科の受診を勧めます。ある芸能人の乳がん発見により痛みで受診する方が非常に増えましたが、初期の場合、痛みはないことがほとんどです(もちろん痛みがある場合も稀にあります)。

④検診について：乳がんの早期発見のために

は、定期的に受ける健康診断「定期検診」と、日ごろから自分で行う「自己検診」を組み合わせることが大事です。検診開始年齢は、自己検診と併せて、自分で決めてもかまいません。基本的には40歳以上の検診を勧めています。ただ先ほどのリスクに当てはまる人は40歳より早めにスタートしてもよいでしょう。

⑤乳がんの治療：乳がんの治療としては、乳房の中のがん細胞に対する治療である「局所療法」と、乳房以外に存在するがん細胞に対しても多くやリンパの流れにのって、乳房から遠く離れた臓器(骨、肺、肝、脳など)にまで運ばれていくことを遠隔転移といいますが、遠隔転移しても全身療法など長期生存が可能となつてきています。